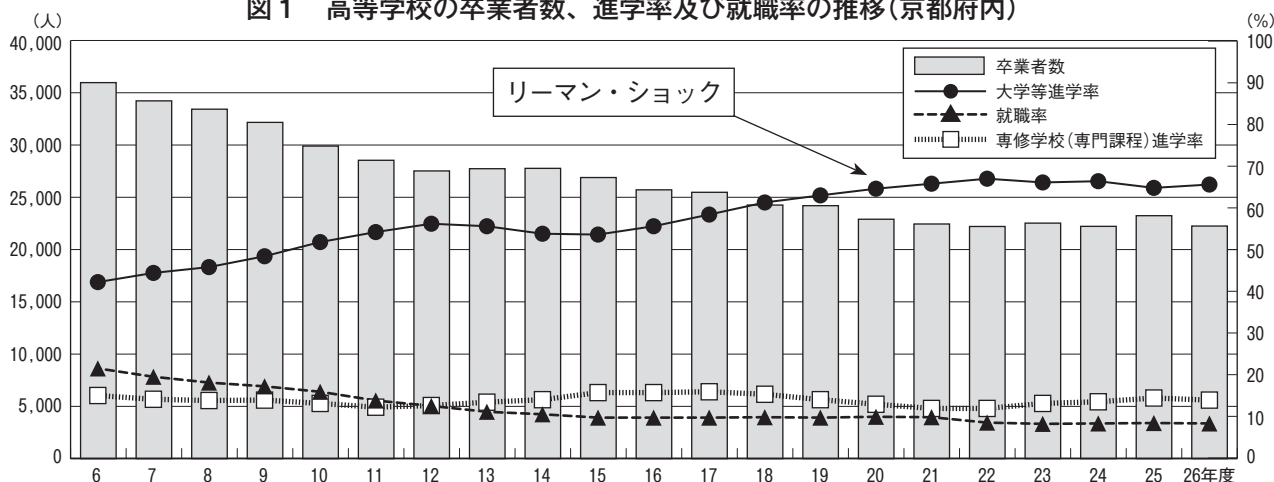


高校生の進路

今年も受験シーズン真っ最中です。そこで今回は高校生の進路について見てみましょう。

平成26年度の学校基本調査によると、京都府内の高校生の卒業後の進路として、大学学部への進学、次いで専修学校への進学の順に高くなっています。過去を比較してみると、この20年で卒業生数が1万人以上減少していますが、大学進学率は20%以上も上昇しています。また、リーマン・ショック（平成20年）後の平成21年以降については、就職率が低下し、専修学校の進学率の上昇の傾向が見られます。（図1）

図1 高等学校の卒業生数、進学率及び就職率の推移(京都府内)

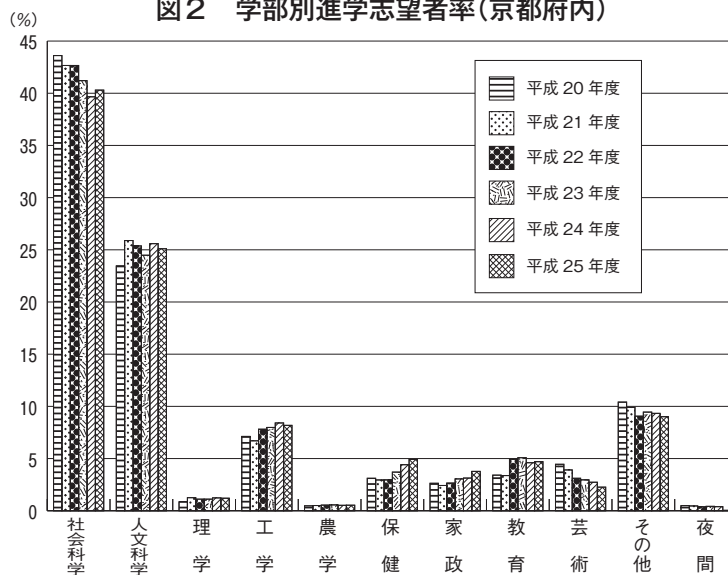


出典：学校基本調査
注 各年度とも、3月末の値である。

また、京都府内の大学の学部別進学志望者率（図2）を見てみると、この5年での志望先の変化として、今後の福祉の需要の増大を見込み保健や健康科学が含まれる家政の学部や、将来の進路が明確な教育の学部へ人気が集まっていることが見受けられます。また逆に芸術系の学部や進路の幅が広い社会科学の学部の志望者は減少しています。手に職を付けるため、将来を見据えた進路選びを高校生は行っているのではないのでしょうか。

今年の卒業生にもぜひ自分の夢を叶えて欲しいですね。

図2 学部別進学志望者率(京都府内)



出典：学校基本調査（文部科学省）
注1 この表は京都府内に所在する学部の入学志願者である
注2 入学志願者とは、入学を志願を志願した者を全て計上したものである。